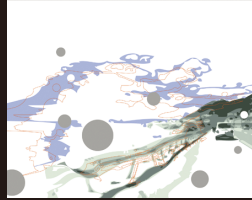


世界(自然)や時間に対峙し、それらの外側に何かをつくり出すことが芸術だと考えている。
モチベーションの源泉である「探求、遭遇の経験」と「記憶想起の内的な旅」を海に例えるなら、海水が大気と混じり振動するみなもである。
自分の経験と探求のレイヤーにダイビングしていくことと、海面から蒸発し意識を外へと開いていくことは同じで、そのたびに「どこにもない、表現したい何か」を見いだす。
今回、絵画とその絵画から生成された音楽を同時に展示・再生することで、会場に生まれる振動を鑑賞者に感じてもらうことをコンセプトとした。

1. Route28 > 4:00

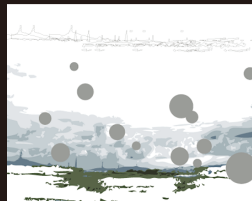
主旋律はRGBデータから起こしたもの。オリジナルの旋律を補強するようにリズムや各種ループ素材を加工した音のレイヤーを重ねている。Voiceは「R G B 255.255.255 55.255.255255.255.255 white white white white R G B」と語る。「255,255,255」はRGB値におけるホワイト。また部分的に旋律のデータをコピーし音色を変化させたものをリフレインしている。



1,303×1,620 mm oil painting

2. 開く空 > 4:40

R(red)のデータ音だけ、それぞれ倍の長さ加工した。Whiteのデータ音(255)はR,G,Bとも取り除いた。最初のシンセサイザー音、後半のビートを追加する。全体に深さとひろがりのある音にした。



1,303×1,620mm oil painting

3. 苔の上のもみじ > 5:04

短い音符で変換し全体のテンポを上げた。アコースティックギターソロの部分はB(blue)の値を使用し、他の値はミュートしている。MIDIから曲に起こしていく際、スパークするような音の粒子と奥ゆきをイメージして加工。



727×910mm oil painting

4. SAKURA > 3:40

Red,Greenを中心に、全体に明度を2オクターブ分下げた。

voice part :

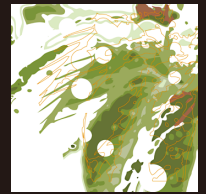
「ただ両域の間に縷のごとき幻境が横わる。醒めたりと云うには余り臆にて、眠ると評せんには少しく生気を剩す。起臥の二界を同瓶裏に盛りて、詩歌の彩管をもって、ひたすらに攪き雑ぜたるがごとき状態を云うのである。自然の色を夢の手前までぼかして、ありのままの宇宙を一段、霞の国へ押し流す。睡魔の妖腕をかりて、ありとある実相の角度を滑かにすると共に、かく和らげられたる乾坤に、われからと微かに鈍き脈を通わせる。地を這う煙の飛ぼんとして飛び得ざるごとく、わが魂の、わが殻を離れんとして離るるに忍びざる態である。抜け出でんとして逡巡い、逡巡いは抜け出でんとし、果ては魂と云う個体を、もぎどうに保ちかねて、鼠るる暝気が散るともなしに四肢五体に纏綿して、依々たり恋々たる心持ちである。」
「草枕／夏日漱石」より



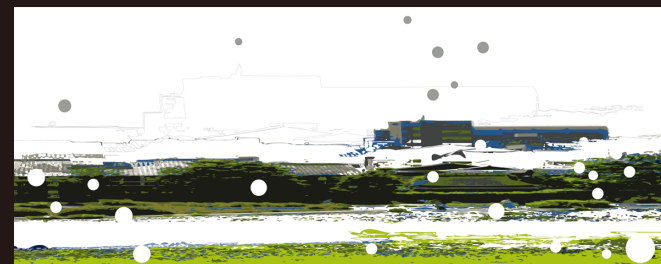
400×400mm oil painting

5. 雨の葉 > 3:17

短い音符で、それぞれの値を変換し、再生スピードも速く設定した。使用した音源はオーケストラ音源。ハイハット・シンバルのように一定リズムを刻む音源は、White (255.255.255)の高音。



400×400mm oil painting



1,303×3,240mm oil painting

6. 左岸から-L > 8:56

画面を2分割し、左半分を変換したもの。余白部分はwhite値を全て消去し一旦無音にし、他の部分の数カ所からカラーージュし、加工した。静かなパートは画面上での余白が水平方向に広がる部分である。また、いくつかのリズムトラックを加え、オリジナルの音源とからませてみた。

7. 左岸から-R > 9:11

「左岸から-L」と同様に画面を2分割し、右半分を変換したもの。余白部分はwhite値を全て消去し一旦無音にし、他の部分の数カ所からカラーージュし、加工した。タイムラインをずらして音を配置することにより、ユーモラスなラインを作った。深さを持たせるため、同様のメロディーをオクターブに重層するなど編集。シンセサイザーの音源とアコースティックのナイロンギター音源などを使用。Voiceは「View from left bank.」と語るのはOSのシステムのテキストスピーチから。

RGB Musicについて

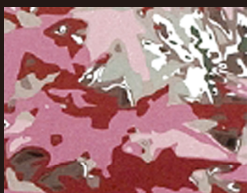
RGB値を音階に変換するアプリケーション「RGB MusicLab」*を使用し、デジタルドローイングをモザイク画像に変換し、ピクセルを音階に変換した。それをMIDIファイルに出力し、シーケンスソフトで加工編集した。

■ RGBとは

RGBは色の表現法の一つで、赤(Red)、緑(Green)、青(Blue)の三つの原色を混ぜて幅広い色を再現する加法混色の一種である。ブラウン管(CRT)や液晶ディスプレイ(LCD)、デジタルカメラなどで画像再現に使われている。各色の明度は0から255までの256個の数字で表現できる。

■モザイク画像の読み取り

左上の色から横に右下まで読み取っていく。
例:左(オリジナル画像)を右(モザイク画像)に変換し、モザイク画像の左上から1-A,1-B,1-C...1-M...10-Mという順で、それぞれのRGB値を読み取りハーモニーにしていく。(左図)



Original



Mosaic

■ RGB値と音階

RGB値は上述のように0から255までの値があり、2つづつの値を同じ音階として読み取る。(右図)

*「RGB MusicLab」

小島健治氏が開発した、画像のRGB値(Red, Green, Blue)を、12音階に変換して、MIDI、AIFFファイルを作り出すプログラム。画像ピクセルの、ひとつひとつのRGB値を読み取って、RGB値を3音のハーモニーにする。 [RGB MusicLab/by Kenji Kojima]より

RGB値	音階
123	C#
122	
121	C
120	